

御堂筋のにぎわいを創出する滞留行動に関する研究

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 古川 貴裕
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 下村 泰彦
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 加我 宏之
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 増田 昇

1. はじめに

大阪のメインストリートである御堂筋では、御堂筋イルミネーションや側道でのオープンカフェ等の社会実験が実施されるなど、その魅力の再発見や広い歩道を活かしたにぎわいのある街路づくりが試みられている。以上のような状況のもと、淀屋橋、本町3丁目の交差点付近では、一階の通りに面した部分にカフェテラスやショールーム等にぎわいを生み出す空間を設けることを条件に、景観への配慮から50メートル以下とされていた高さ制限が規制緩和される¹⁾など、新しい御堂筋のあり方が模索されている。一方で、商業地域として活気のある心齋橋、なんば周辺は、歩道の混雑や歩行者と自転車の交錯、憩うスペースがない等安全面や快適性についての指摘がなされている。既往研究をみると、栗本ら²⁾は街路空間のアメニティ向上のためには街路と建物間に大きい間口と奥行を持つ空地を設けそれらの連担を図ること、さらに所有者の心配りでより良い空間にしていくことが必要とされると述べている。また、石井ら³⁾は2002年に実施された「御堂筋ミナミエリア・魅力ある回遊道の創出」という社会実験において歩行者密度やばらつきの視点から、御堂筋を事例としたにぎわい性を検証している。しかし、御堂筋沿道の日常的な滞留行動に関する既往研究はみられず、実際の滞留行動の現状と歩道や民有地における物的環境特性との関係を探ることは意義があると考えられる。

そこで、本研究では、御堂筋沿道の物的環境特性と利用者の滞留行動特性の関係性を把握し、滞留行動の視点から御堂筋のにぎわいを創出する方法を探り、今後の御堂筋活性化の一助とすることを目的とする。

2. 研究方法

本研究では、御堂筋の沿道の物的環境特性と利用者の滞留行動特性を把握し、それらの関係性を探った。

(1) 調査対象地区の設定

調査対象地区は、御堂筋の北部は歩道形態が大きく異なる北部を除いた淀屋橋からなんばまでの南北約3kmの区間を設定し、様相の異なる淀屋橋一本町間、本町一心齋橋間、心齋橋-なんば間の東西それぞれ6地区を解析単位として設定した。

(2) 御堂筋沿道の物的環境特性の調査方法

御堂筋沿道の物的環境特性について、図上調査及び現地調査(2009年9月に実施)から、民有地の物的環境特性(一階の建物用途、セットバック空間でのセットバック距離、

移動不可の滞留障害物の有無)と歩道の縁石の着座部分の長さを把握した。ここで縁石の着座部分とは、御堂筋の縁石に設置されている幅60cm×奥行25cm以上の縁石のことであり、セットバック空地とは、建築線の誘導等によって壁面がセットバックすることで生じる空地とした。民有地での利用可能状況を写真1~4に示した。

(3) 御堂筋沿道の滞留行動特性の調査方法

御堂筋沿道の滞留行動は、ルートセンサス法による調査(2009年10月末に実施)から捉えた。観察項目は、滞留人数、行動内容、滞留位置とした。

3. 結果及び考察

(1) 御堂筋沿道の物的環境特性

【淀屋橋一本町西側】一階用途は、業務系の小計が4割、飲食系が1割強を占める地区であり、飲食系に関しては全ての地区の中で最も多い。4m以上のセットバック空地の間口長が4割強と全ての地区の中で最も多く、利用可能部の間口長も5割強と全ての地区の中で最も多い。そのため、一階部分の主たる用途は業務系ではあるものの、大きいセットバック空地を利用したオープンカフェ等がみられる。

歩道では、車道側の縁石がないため着座部分が存在せず、歩道での着座利用の可能性が非常に低いといえる。以上より、民有地では広い滞留空間が存在し6地区の中では比較的滞留環境が整っている地区であるといえる。一方、歩道では滞留環境は整っていない。

【淀屋橋一本町東側】民有地では、一階用途は、業務系の小計が5割弱、空テナント等が2割弱を占める地区であり、休日には多くのテナントが閉まっている状態となっている。

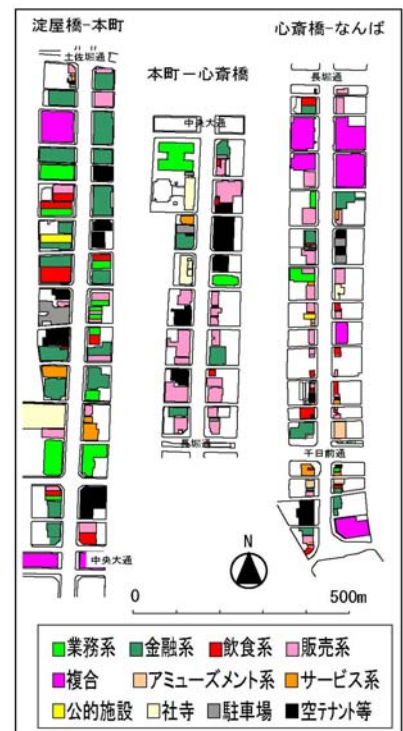


図1 一階用途の現況

4m以上の広いセットバック空地が4割弱と多く存在するが、セットバックしていない敷地も同程度に存在する。しかし、利用可能部の割合が5割弱と多いことから、滞留利用可能な大きいセットバック空地が多い地区であることが分かる。歩道では、車道側の縁石がないため着座部分が存在せず、歩道の着座利用の可能性が非常に低いといえる。以上のことより、民有地では滞留空間となり得る広いセットバック空地が存在しているが、歩道では滞留環境が整っていないといえる。【本町一心齋橋西側】民有地では、一階用途は、社寺が3割弱、空テナント等が3割弱を占める地区である。セットバックなしが3割強と最も多いが、その一方で4m以上のセットバック空地も3割と多い。しかし利用不可部が2割強と比較的多く、滞留利用可能なセットバック空地は少ない。歩道では、全長に対する縁石の着座部分の長さの割合が4割と全ての地区の中で2番目に多くあり、着座利用の可能性が高いといえる。以上より、民有地では一階部分に空テナント等も目立つため集客力は小さい。また、広いセットバック空地は多いものの利用不可部が多く、滞留環境は整っていないといえる。一方、歩道では縁石の着座利用の可能性が高く、滞留環境は比較的良い。

【本町一心齋橋東側】民有地では、一階用途は販売系が5割弱、空テナント等が3割弱を占める地区である。セットバックなしが3割強と最も多いが、1-2mと4m以上のセットバック空地もそれぞれ3割弱と比較的多い。しかし利用不可部が2割と比較的多く、滞留利用可能なセットバック空地は少ない。歩道では、全長に対する縁石の着座部分の長さの割合は3割強であり、縁石がある地区の中では着座利用の可能性がやや低いといえる。以上より、民有地ではセットバックなしと利用不可部が多く滞留環境は整っていないが、人を誘引する可能性はあるといえる。一方、歩道では縁石の着座部分はやや少ないものの、滞留環境は存在している。

【心齋橋一なんば西側】民有地では、一階用途は全ての商業系の用途があり、商業系の小計が6割強を占める商業系の地区である。販売系が4割弱を占め最も多い。セットバックなしが5割弱と全ての地区の中で最も多い。セットバックしている部分に関しては、4m以上のセットバック空地が2割強と最も多く、利用可能部の割合が4割弱とやや多いことから、滞留利用可能な部分は存在しているといえる。歩道は、全長に対する縁石の着座部分の長さの割合が5割弱と、全ての地区の中で縁石の着座部分が最も多いことが分かる。以上より、一階用途は商業系が6割強を占め集客力は高いといえる。民有地ではセットバックなしが多いものの滞留利用可能な大きいセットバック空地

がやや存在することが分かる。歩道では、縁石の着座部分が最も多く着座スペースが6地区の中では最も多い地区である。【心齋橋一なんば東側】民有地では、一階用途は、全ての商業系の用途があり、商業系の小計が7割を占める商

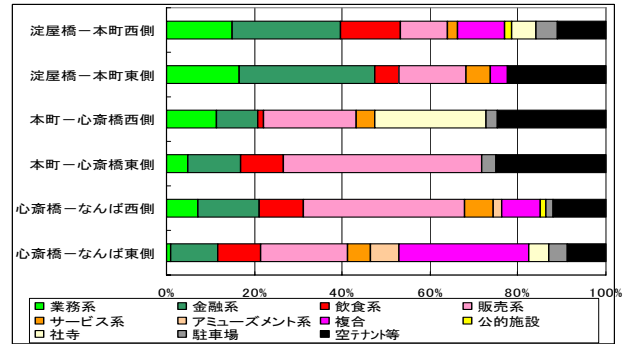


図2 全長に対する一階用途別の間口長の割合

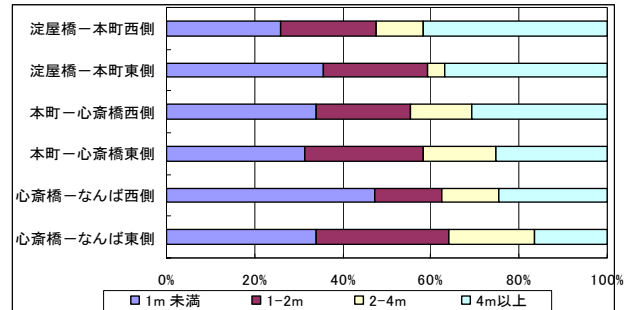


図3 全長に対するセットバック距離別の間口長の割合

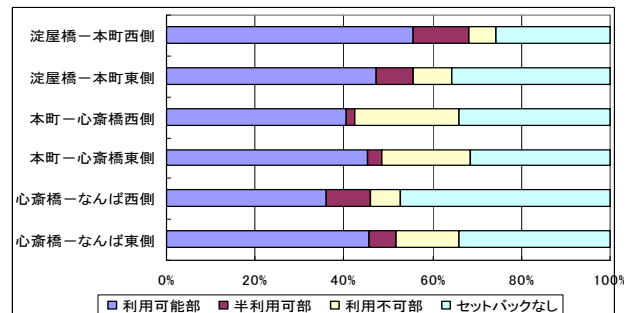


図4 全長に対する利用可能状況別の間口長の割合

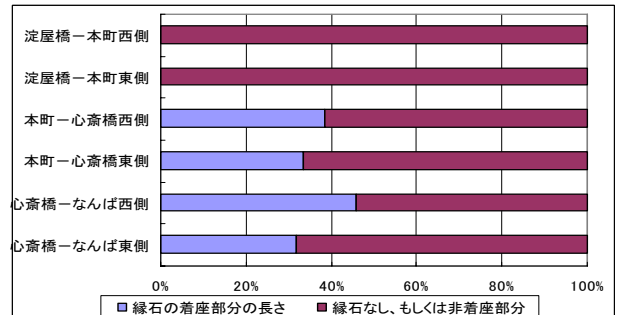


図5 全長に対する縁石の着座部分の長さの割合



写真1 「4m以上セットバック」 「利用可能部」



写真2 「4m以上セットバック」 「利用不可部」



写真3 「1-2m以上セットバック」



写真4 「セットバックなし」

業系の地区である。複合が3割を占め最も多い。また、セットバックなしが3割強と最も多いことが分かる。セットバック空地に関しては1-2mのセットバック空地が3割と多く、利用可能部の割合が5割弱と多いため、狭いながら滞留利用可能な部分が多い。歩道は、全長に対する縁石の着座部分の長さの割合は3割であり、縁石がある地区の中では差は僅かではあるが着座利用の可能性が最も低い。以上より、心齋橋-なんば東側は、民有地ではセットバックなしが多いものの滞留利用可能な狭いセットバック空地がある程度存在することが分かる。歩道では縁石の着座スペースはやや少なくなっている(図1~5参照)。

(2) 御堂筋沿道の滞留行動特性

【淀屋橋-本町西側】滞留人数は平日が43.8人と比較的多いが、休日には約30人減少して14.5人となり6地区の中で最も少なり、休日にテナントが閉まる業務地区の特性が表れているといえる。行動内容は、平日では「携帯利用」が10.3グループ、「飲食」も4.8グループと比較的多い。休日では「飲食」が2.5グループ、次に「携帯利用」が1.9グループと多い。飲食が比較的多いのは、オープンカフェの利用が多いためと考えられる。滞留位置は、平日では民有地が22.2グループと歩道の10.0グループより2倍以上多く、休日では民有地が5.1グループと歩道の3.9グループより多い。民有地の方に滞留グループが多いのは淀屋橋-本町西側のみで、上記のオープンカフェの利用等、民有地の滞留環境が整っているためと考えられる。【淀屋橋-本町東側】滞留人数は平日が45.3人と比較的多いが、休日には約30人減少して15.7人となり6地区の中で最も少なくなり、休日にテナントが閉まる業務地区の特性が表れているといえる。行動内容は、平日では「携帯利用」が9.1グループと多く、休日では「見る」が2.3グループと多い。休日の見る行動は、具体的には地図を見る行動が最も多い。滞留位置は、平日では民有地に11.9グループ、歩道に12.1グループ滞留していて、民有地では「壁際」の6.2グループが多く、また「広場」にも5.7グループみられた。歩道では「車道側」の5.2グループが多く「路上」でも4.6グループみられた。休日では民有地に3.9グループ、歩道に6.5グループと歩道の方に滞留者が多いが、民有地では「壁際」が2.2グループ、「広場」が1.5グループ、歩道では「路上」が3.7グループ、「車道側」が1.7グループみられた。平日、休日ともに滞留位置が分散しており、広いセットバック空地が有効に利用されていないといえる。【本町-心齋橋西側】滞留人数は平日が20.8人で休日が21.6人と滞留人数に大きな変化はないことが分かる。行動内容は、平日では「携帯利用」が4.6グループと多く、休日では「会話」と「携帯利用」が3.2グループと多い。滞留位置は、平日では民有地が2.2グループと歩道が10.1グループであり、歩道では「路上」が5.2グループと多い。休日でも民有地が3.3グループと歩道が8.8グループであり、歩道の方が多いことが分かる。歩道は「路上」が4.6グループと多い。歩道に滞留グループが集中していることが分

かる。【本町-心齋橋東側】滞留人数は平日が34.0人で休日が36.4人と滞留人数に大きな変化はないことが分かる。行動内容は、「休憩」が平日では8.6グループ、休日では6.2グループと最も多い。平日と休日とも休憩利用が多いことがわかる。滞留位置は、平日では民有地が8.7グループと歩道が17.1グループであり、休日では民有地が5.4グループ、歩道が16.2グループであり、歩道の方が多いことが分かる。【心齋橋-なんば西側】滞留人数は平日が113.5人と多く、さらに休日には約50人増加して160.0人と非常に多くなる。行動内容は、平日では「携帯利用」が22.3グループと最も多く、「商的な行為」が8.9グループと比較的多くなっており、休日でも「会話」が26.6グループと最も多く、「商的な行為」が12.0グループと比較的多い。「商的な行為」が多く見られたのは商業系の特徴が表れている。滞留位置は、平日では民有地が26.0グループと歩道が56.0グループであり、歩道では「車道側」が34.6グループと多い。休日でも民有地が37.0グループと歩道の61.9グループであり、歩道の方が2倍弱多いことが分かる。歩道は「車道側」が39.0グループと多い。平日、休日とも滞留者数は歩道上に多いことが分かる。民有地に空間が少ないこと、縁石の着座部分が良く利用されていることが分かる。【心齋橋-なんば東側】滞留人数は平日が72.4人と多く、さらに休日には約70人増加して138.3人と非常に多くなる。行動内容は、平日は「携帯利用」が13.8グループと最も多く、また「商的な行為」が9.3グループと比較的多い。休日は「会話」が23.3グループと最も多く、また「商的な行為」が12.2と大きいと比較的多い。心齋橋-なんば西側と同様の変化がみられた。滞留位置は、平日は民有地が13.3グループと歩道が40.4グループであり、歩道の方が3倍以上多いことが分かる。歩道では「車道側」の18.0グループがやや多い。休日でも民有地が19.0グループと歩道の62.4グ

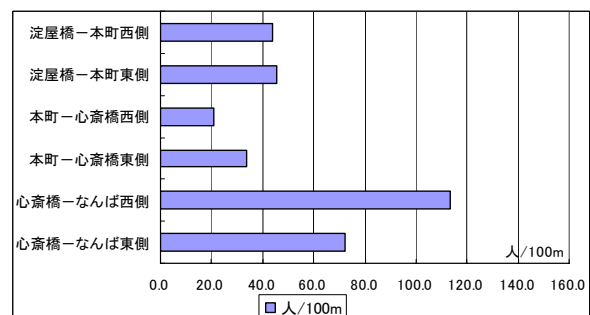


図6 平日の100m当たりの滞留人数

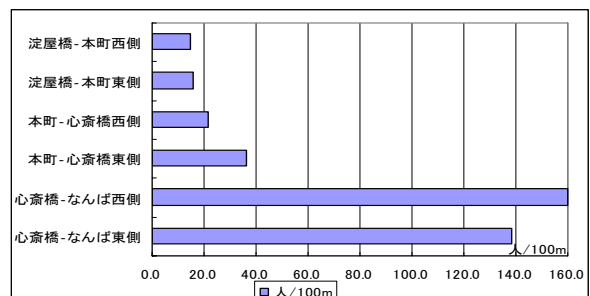


図7 休日の100m当たりの滞留人数

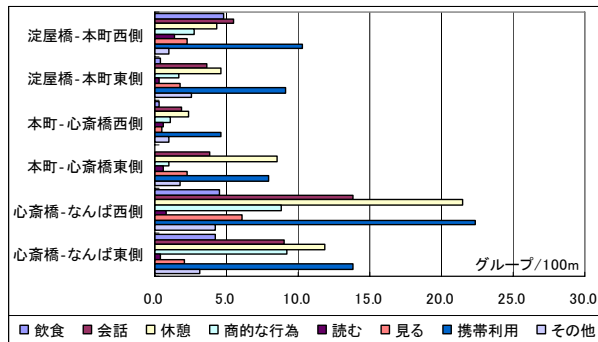


図8 平日の100m 当たりの行動内容

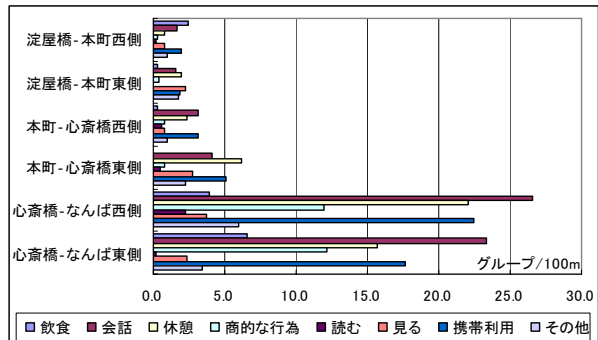


図9 休日の100m 当たりの行動内容

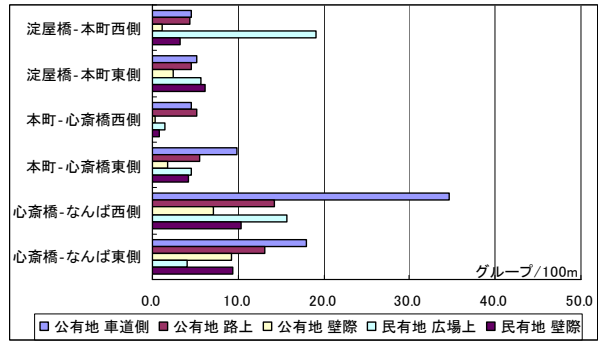


図10 平日の100m 当たりの滞留位置

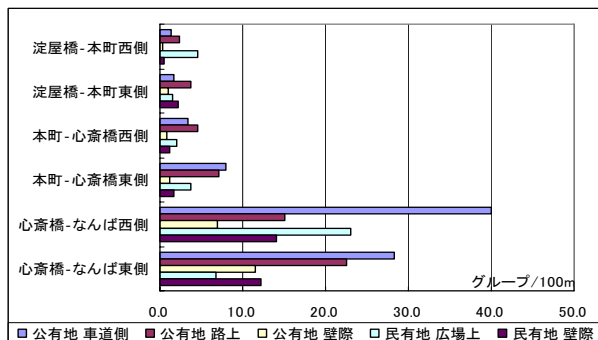


図11 休日の100m 当たりの滞留位置

ループであり、歩道の方が3倍以上多いことが分かる。歩道では車道側が28.3グループとやや多い。西側と比較すると、歩道での滞留が多いものの車道側での滞留が比較的少ないことが分かる。このことは民有地の空地の少なさや緑石の着座部分の少なさが影響していると考えられる。

4. まとめ

【淀屋橋一本町間西側】広いセットバック空地を活かしたオープンカフェにより、セットバック空地が滞留空間として利用されている。しかしながら、地区全体としては淀屋橋一本町間東側と滞留人数に差はみられなかったため、一階部分にカフェを入れることによる地区全域に及ぶ集客効果は確認できなかった。休日には利用者が激減することからも、休日にも集客力を発揮する商業用途を一階部分に誘致すること等が有効であると考えられる。【淀屋橋一本町間東側】平日、休日ともに淀屋橋一本町間西側と同程度の滞留者数であり、休日の集客力を高める必要があるといえる。しかしながら、西側よりもセットバック空地の滞留利用が少ないことより、食う地上に滞留行動を誘発する工夫が必要である。歩道に滞留環境のない淀屋橋一本町間においては、セットバック空地上に滞留のためのファニチャーを設置したり、セットバック空地を活かしたイベントの開催等の利用者を誘引する工夫でにぎわいを創出できると考えられる。【本町一心齋橋西側】平日、休日共に滞留者数が少ない状況にある。これは、一階用途の集客力のなさ等が原因と考えられ、集客力の強い用途を誘導する等抜本的な対策が必要である。【本町一心齋橋東側】販売系の一階用途が多いため、同区間の西側よりやや滞留者が多くなっているが、滞留者は比較的少なくなっているため、他の商業用途

を積極的に誘導する等、他地区や周辺境界から御堂筋に人を誘導する魅力性の創出が課題である。【心齋橋-なんば西側】平日、休日ともに滞留者数は非常に多く、沿道の集客力は強いことが分かった。また、民有地にセットバックのない敷地が多いのに対し歩道に着座スペースが確保されているため歩道での滞留が非常に多くなっている。グループによる会話や路上での客寄せ行為が多いことも、歩道の混雑の原因の一つになっている。したがって、歩道の拡幅により滞留スペースを確保することや、民有地側での空間創出が課題といえる。【心齋橋-なんば東側】西側と同様に平日、休日ともに滞留者数は非常に多く、歩道での滞留が非常に多い状況となっている。また、歩道の着座スペースの利用が少なく歩道上での滞留が多くなっているため、西側よりも混雑している可能性がある。しかしながら、物的環境特性と滞留行動特性ともにほぼ同傾向であることから、西側と同じように歩道拡幅や民有地側での滞留空間の確保が課題といえる。

参考文献

- 1) asahi.com「御堂筋高さ制限、一部で撤廃へ にぎわい空間確保が条件」2006年10月19日
<http://www.asahi.com/kansai/news/OSK200610190066.html>
- 2) 栗本美和・材野博司 (1994) : 街路空間と壁面後退空地の関係についての基礎的研究—街路空間における壁面後退空地の寄与性—:平成6年度 日本建築学会近畿支部研究報告集 861-864
- 3) 石井裕介・日野泰雄・内田敬 (2003) : 中心市街地のにぎわいの定量的評価に関する基礎研究—御堂筋オープンテラス社会実験を事例として—:土木計画学研究・講演集 (CD-ROM) 卷:27:II(15)